山のある風景

阿蘇国立公園に属する由布岳の山頂は、東西二峰に分かれており、由布院盆地から見ると見事な双耳峰だが、北東の大分市附近から望む東峰が平頂に見え〝豊後富士〟とよばれるほどの秀麗な姿を楽しませてくれる。

由布岳

画（墨淡彩）
17分会　姉川良男

『弁当箱』

東ブロック　松尾薫虹

私の家にある一個のアルミの弁当箱。これは主人のものです。この弁当箱は、私が嫁いだ時にはもう使っていましたから、それからでも三十年が経ちました。この弁当箱に三十年の生活を語ってもらうことにします。

「私のご主人の松尾修は、昭和二十九年五月に結婚した当時は坑外でした。月に二十九日出勤し、六十時間ぐらいの残業をしても、一万二千円前後の給料でしたから、私の中身もあまり立派な物は入っていません。

翌三十年には長女、三十三年には二女と子供が増えると、ますます貧素なものになっていきました。

それで三十三年六月に坑内に入ることになりました。これで私も少しはおいしい物が入るぞと期待したのですが、坑内運搬工になったものの三川鉱の第七上層の終掘で『材料出し』ばかりで、本線の運搬工に比べると半分程度の賃金でしたし、当時は『炭労』が塵肺問題で一時金から年金に改正するたたかいをやっていたと思いますが、やたらにストが多かったようです。

また、会社は賃金の遅配や欠配をやるので私の中身はちっとも良くならず、三十五年は『三池と安保』の大闘争で私の出る幕はなくなってしまいました。

一年におよぶ大闘争がやっと終わり、また私の出番です。ご主人は就労するに当たって採炭工に職名がが変わりました。

職場に帰ったご主人たちを待っていたのは、闘争中に会社が作った第二組合員との差別でした。ご主人は採炭の仕事はさせられず雑役ばかりで、またも最低の生活です。私も不運なものです。でもご主人と一緒に暗い坑内で頑張りました。そして三十八年十一月九日、この日のことを忘れることはできません。

午後三時十五分。この時を境に私はご主人と離ればなれになったのです。ご主人はその日の遅く脱出したのですが、私は一週間ぐらいあとで昇坑しました。私の中のご飯は、赤、黒、黄色とまるで七色の絵具を塗り込めたようで、気持が悪かったのを憶えていますが、なんとか迷い子にならずにご主人の許へ帰ることができました。

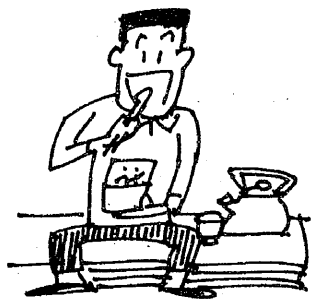
その後も、坑内で頑張ろうと思っていましたが、ご主人が爆発で吸った一酸化炭素の中毒患者になり、四十三年の一月に協定が決まるまで私の出番はなくなりました。

三川鉱の坑外でしばらく仕事をしていたご主人は、CO患者のための造成職場である新港作業所に行くようになりました。私はご主人の自転車に乗せられて、ご主人が定年退職を迎えた五十七年一月四日、実際には暮れの二十八日まで通いました。

諏訪橋から新港作業所までの川沿いの道は、夏でも冬でも辛いものでした。ご主人が定年になったので、私もこれでお役ご免かと思っていましたがそうはいきません。

ご主人は十七年の入社ですが坑外が長く、坑内年数が足りなくて五十五歳からの厚生年金の資格がありません。それで雇用保険が切れた昨年の三月から、私はご主人のお伴をして土方の仕事に行っています。

私の人生はあまり幸せではなかったような気がします。いつも貧乏と腕を組んで、でもご主人さまが正しいと思って生きてきたんですから、私もあまり愚痴は申しません。これから先もご主人と二人三脚でと言いたいところですが、さし当たり厚生年金法が改悪されると本当に困ります。もうしばらくは、私も元気で居ないとご主人も困りますので、なんとか元気で頑張ろうと思っています」



『三池』チームが健闘

新春市内五周駅伝に出場

一月五日、大牟田市の新春恒例の市内五周駅伝大会が開かれました。この競技は大牟田市陸上競技協会の主催で今回で三十八回をかぞえます。

市営記念グランドと延命公園周辺の道路約二・五キロメートルを一人二周、計五人で二十五キロメートルを競うもので、年々参加チームが増え、今年は一般の部には二十六チームが参加しました。

三池労組の愛好者が今回初めて「三池」チームとして参加、平均年齢四十七歳というハンディを持ちながら健闘し十九位でゴールしました。出場選手は、甲斐田親さん、佐藤徳士さん、野田幹郎さん、白木光雄さん、前田忠さんでした。

（写真上は出場選手、右は中継点でのもよう）

くらしの歳時記

冬をかこつことなく

神山恵三

西高東低の天気、つまり、シベリア大陸方面では高気圧、太平洋側の地域では低圧部という天気状態はこれからの冬の典型的な状態である。

乾燥して、冷えきったシベリアからの空気は日本海を渡って西北の季節風となって日本列島にやってくる途中でたっぷりと海面から水蒸気を補給される。この水蒸気は、背稜山脈に当たって、日本海側に雪となって、落ちる。世界でも有数な多雪な気候をもたらす。水蒸気を落とした空気は、太平洋側に空気となって吹き降りていく。

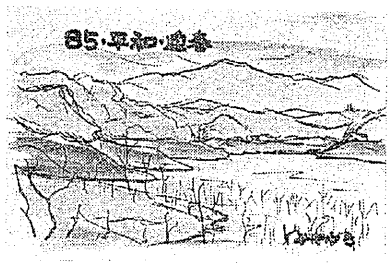
「春のようだ」と、日本にきた西欧の人達はこの太平洋側の冬の乾いた、天気に目を見張る。

来る日も来る日も、低い太陽高度の暗くて、冷たい曇の冬空しか知らない西欧人にとっては、太平洋側の冬の太陽の輝きはまさに春のように感ずるのであろう。彼等の春は日本のようなうららかな暖かさはない、ただ光が豊富になる。日本海側の冬空は雪雲におおわれてはいるが、光そのものはそう少ないものではない。雪面反射によって光の量はかなりある。雪を取りのぞいたビニールハウスの下では野菜がよく育つのはその証拠である。

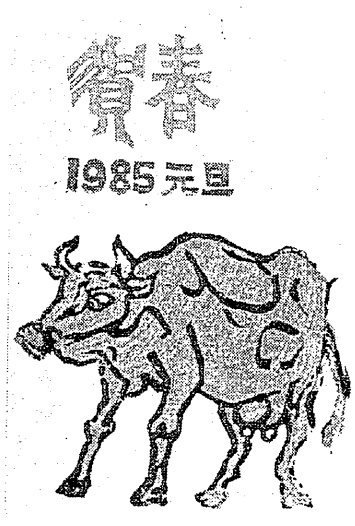
太平洋側では朝夕の寒さは厳しいが日中輝く太陽で日当たりは日射量豊富であるし、日本海側では曇っているお蔭で、夜朝の放射冷却は少ないので冷え込みは案外少なく、雪面反射で散光はかなり多いわけである。それぞれの地域での冬の天気特性を知って、冬の厳しさをかこつことなく、おおいにそれを利用していこう。（かみやま・けいぞう＝生気象学者）〔連合〕

組合員の賀状から

森のぼるさん（版画5色刷）



宮脇好光さん（彩色4色）



姉川良男さん（版画4色刷）

お知らせ

『全労済』の契約改正期です

少ない掛け金で最大の補償を、例えば火災共済では最低二十口（月払い百四十円）で二百万円の補償があります。その他、団体生命、交通、自動車などがあります。ぜひ加入しましょう。

白雲社の利用券をどうぞ

従来から白雲社との契約で祭壇利用の割引き券があります。組合へどうぞ。

燃料カードの切り替えを

一月十一日から二十二日まで石炭、煉炭カードの切り替えがあります。社宅は社宅事務所、外来は人事福利係で。印鑑と旧カードを持参のこと。

新春囲碁大会開く

総合優勝は井口さん

三池労組の囲碁愛好会は、一月十三日午前九時から二十四人が参加して新春囲碁大会を開きました。結果は次のとおり。

A組　井口勝吉（9分会）
　　中村賢（O B）
　　高木哲雄（4分会）
　　荒木一徳（11分会）
　　田中精一（12分会）
　　村上静雄（7分会）
C組　秋富学（4分会）
　　黒田定（15分会）
　　宮崎勝（1分会）

なお、対戦成績集計の結果、総合優勝はA組の井口勝吉さんに決まりました。